鹿児島女子短期大学紀要
第36号（2001）141～161頁

奄美大島における子育て環境　第一報

── 奄美大島における保育所通園児の母親を対象にした調査報告 ──

坪　井　敏　純

鹿児島県の離島数は全国第４位の28島で，面積は第１位という特徴を持っている。奄美大島本島は，奄美群島（鹿児島市から南西へ380キロメートル～590キロメートルの海上に点在する島々の総称）の中で最大の島であり，日本で３番目の大きさを持っている。奄美大島本島は，名瀬市と３町３村からなり，世帯数は名瀬市がおよそ17,680世帯（平成11年），その他の町村は総数約12,000世帯（平成７年）となっている。この３町３村はすべて過疎地域に指定されている。また認可保育所が20園あり，へき地保育所が36園（休園７園含む）設置されている。へき地保育所に関しては，鹿児島県全体のへき地保育所（61園）のほぼ半数が奄美大島本島にある。付け加えると，鹿児島県の全保育所のうち50％が過疎地に設置されている。

過疎地における保育については，全国私立保育園連盟が主催する「全国過疎地保育サミット」が開催されており，平成12年で第４回を迎えた。今まではどちらかと言うと経営的な側面の話題が多かったようであるが，第４回では「過疎地における保育実践」の分科会が開かれている。また全国保育団体合同研究集会でも「過疎地の園と保育・子育て」（平成11年第31回大会）という分科会がある。さらに日本保育学会第53回大会（平成12年）では自主シンポジウム「少子化時代の小規模保育を考える－過疎地の保育所問題を中心に－」が開かれた。

過疎地の保育所運営について山縣（1999）は，過疎地で起こっている保育問題を次のように分類している。(1) 母子生活から見た問題；子ども同士の育ち合いの関係が，都市部以上に失われがちである。同様に他地区から婚姻によって転入してきた母親は不安や孤独を感じながら子育てに取り組んでいる，(2) 保育所運営から見た問題；子どもの絶対数の減少が保育所運営を圧迫している。特に過疎地にこの問題は深刻である，(3) 市町村財政が過疎化，高齢化，不況によって自治体の財政が圧迫されている。同時に彼は特に，保育施策が規模を基盤に構築されている点を批判し，例えば利用者数を基盤とした職員の配置になっている点が過疎地の保育問題を深刻化させていると指摘している。

子育てを考える上で保育所の役割が地域によって違いがあるわけではなく，子どもの健全な育成と子育てを支援することに変わりは無い。もちろんその地域にある保育ニーズの種類には多少の相違があることは言うまでもないことである。桜井（2000）は「過疎地だからこそ，逆に全ての子どもに対して０歳児からの豊かな子どもたち同士の関わり合いを公的な責任で行う必要がある」と述べ，「へき地保育所の質的向上を図り，乳児保育もでき，『保育に欠ける』児童だけでなく，地域福祉の観点から全ての子どもたちに利用を広げていかなければならない」と主張している。さらに過疎地の保育について宮里（1999）は，少子化に伴い年齢別保育が不可能になっている現状から，生活に根ざした異年齢保育の創造を主張しており，従来の集団を対象にした保育形態・保育方法の検討が迫られているといえよう。こ

の点は，全国過疎地保育サミットや全国保育団体合同研究集会などで多くの研究発表がある。また保育士の役割はさらに拡大し，子どもの保育だけではなく，育児相談などの支援活動が求められてきている。そのため保育士と母親との信頼関係は重要であるが，子育て相談の相手として必ずしも保育士が選択されているとは言えない（坪井，2000）。

以上のように，過疎化が進み，多くの離島を持つ鹿児島県では，過疎地の子育てと保育所の役割について研究する必要性が高いと思われる。本研究は坪井（1999）が名瀬市で行った調査に続き，過疎地における母親の育児意識と育児環境を調査するため，名瀬市を除く奄美大島本島の町・村に設置されている認可保育所及びへき地保育所の保護者を対象に行ったものである。この結果から保育所における子育て支援のあり方を探ることを大きな目的としている。特にへき地保育所は過疎化によって認可保育所の生き残り策のひとつとして考えられることから，その現状を調査した。本研究はこの第一報として，名瀬市，奄美大島本島の名瀬市以外の保育所，及びへき地保育所を比較し，奄美大島全体の子育て環境を明らかにしようとするものである。なお第２報では名瀬市以外の町村に設置されている認可保育所とへき地保育所だけについて詳細な分析を行ったものを報告する予定である。

方　　法

１．調査対象

奄美大島本島（鹿児島県大島郡　笠利町，龍郷町，大和村，住用村，宇検村，瀬戸内町の３町３村）の認可保育所５園，及び開園しているへき地保育所29園のうち13園の保護者を対象にした。

回収率は認可保育所86.4％（197世帯/228世帯），へき地保育所77.9％（145世帯/186世帯），全体で82.6％（342世帯/414世帯）であった。なお分析の対象は回答者が保育園児の母親に限定した。

２．調査期間

1999年10月～11月

３．調査方法

アンケート調査用紙を保育所の職員が直接保護者に手渡し，保護者が持ちかえり留め置いた後，回収は２週間以内に保護者が保育所に持参した。通園児が複数でも，各世帯ごとに調査用紙は１部配付した。

４．調査内容

調査項目は以下の通りである。詳細な内容は末尾の資料に掲載した。

① 回答者
② 回答者の年齢
③ 家族構成
④ 子どもの数
⑤ 保育園に通っている子どもの数

⑥　出身地
⑦　居住年数
⑧　就労形態
⑨　働く理由
⑩　生活上の悩みや不安
⑪　育児に関する意識
　この項目は今回の分析対象から除いた。第２報で報告する予定である。
⑫　子育てをしやすくするための環境整備
⑬　子育ての相談相手
⑭　保育所への要望
⑮　夫の家事や育児への協力に対する満足度
⑯　へき地保育所を利用する理由

結果と考察

比較のため坪井（1999）が行った名瀬市の認可保育所（495世帯）の結果を合わせて記載した。

１．回答者数

表１は回答者数である。この報告では名瀬市とその周辺地域の保育所が比較できるように，名瀬市の認可保育所の母親（以下，名瀬市と略す），名瀬市以外の地域の認可保育所の母親（以下，名瀬市以外と略す），さらにはへき地保育所の母親（以下，へき地と略す）に分類した。

さらに，名瀬市以外の保育所とへき地保育所では「無職者」が相当数あるので名瀬市のデータと比較するために，有職者と無職者を分けて記載した。表の中の「全体」とは無職者と有職者を合わせた全ての回答者を意味している。

へき地保育所の場合は，入所の条件が保護者の「就労」を必ずしも必要としていないため，40％を超える「未就労」者の園児が含まれている（求職中あるいは育児休業中の保護者だけでなく，実質的には専業主婦の場合も少なくない）。

表１　回答者数（人数）

回答者	へ　き　地			名瀬市	名　瀬　市　以　外		
	無　職	有　職	全　体		全　体	無　職	有　職
母　親	61人	80人	141人	495人	188人	33人	153人

２．年　齢

表２に回答者の年齢を示した。へき地保育所の無職者では，30歳代の割合がかなり高い値となっているが，統計的には名瀬市，名瀬市以外，へき地の各年齢層の割合には有意差は認められない。

表2　年　齢（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	61人	80人	141人	495人	188人	33人	153人
10歳代	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	3.0	0.0
20歳代	19.7	23.8	23.4	27.9	25.0	33.3	22.9
30歳代	70.5	62.5	64.8	58.8	63.3	54.6	65.3
40歳代以上	9.8	13.7	11.7	12.5	11.2	9.1	11.8

3．家族構成

表3は家族構成である。核家族が圧倒的に多く70%～80%になっており，地域差（へき地，名瀬市，名瀬市以外）はない。また片親の家庭は名瀬市が14.8%，名瀬市以外が8.5%，へき地が11.1%で有意差は認められなかった。結局，家族構成には地域差は認められない。

表3　家族の構成（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	61人	80人	141人	495人	188人	33人	153人
夫婦と子ども	80.4	72.6	73.8	76.2	79.3	81.7	79.0
夫婦と子どもと親族	9.8	12.5	12.4	7.7	10.3	6.1	11.1
夫婦と子どもと非親族	1.6	3.7	2.8	0.4	0.0	0.0	0.0
母親または父親と子ども	0.0	5.0	2.8	8.3	5.3	0.0	5.2
母親または父親と，子どもと親族	6.6	2.5	5.5	6.1	2.7	0.0	3.3
母親または父親と，子どもと非親族	0.0	3.7	2.8	0.4	0.5	0.0	0.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.7

4．子どもの数

表4は一世帯の子どもの数の割合を示したものである。へき地では3人以上が50%を超えておりその割合は名瀬市や名瀬市以外に比較して多く，有意差が認められた（$\chi^2 = 35.605$, df = 1, $p < 0.01$, $\chi^2 = 17.331$, df = 1, $p < 0.01$）。この原因は明らかではないが，保育所の保護者の範囲だけで推測すれば，一世帯あたりの子どもの数は3人以上が半数を超えていることから，過疎地の場合は少子化の原因は晩婚化あるいは未婚率の上昇だけでなく，やはり成人の絶対数が少ない点が問題になるのであろう。

表4　子どもの数（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	61人	80人	141人	495人	188人	33人	153人
1人	9.8	8.8	9.7	24.2	24.5	18.2	25.5
2人	42.6	33.7	37.9	41.8	42.0	48.5	40.5
3人以上	47.6	57.5	52.4	33.9	33.0	33.3	33.3

5．通園する園児の数

表5は各家庭の通園児数を示したものである。名瀬市，名瀬市以外，そしてへき地保育所の有職者ではほぼ似通った園児数であるが，へき地保育所の無職者の園児数は80％が一人であり，その割合は有職者と比べ高い傾向が見られた（$\chi^2 = 3.742$, df = 1, $p < 0.1$）。この原因は表4で示したように，へき地の場合はもともと子どもの数が少ないのではなく（むしろ他の地域と比べ多い），無職者の場合は母親が家庭におり，子どもを家庭で育児できる状況があることが一因と考えられる。

表5　保育園への通園児（％）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	61人	80人	141人	495人	188人	33人	153人
1人	81.9	67.5	73.8	68.5	66.3	66.7	62.1
2人	14.8	30.0	23.4	29.4	33.5	33.3	34.0
3人以上	3.3	2.5	2.8	2.0	3.2	0.0	3.9

6．出身地

表6は，母親の出身地を地域ごとに示したものである。名瀬市と名瀬市以外では出身地の割合に差は認められない。しかしへき地保育所では有職者と無職者を比較すると，奄美大島出身の割合が無職者の方が少なく（$\chi^2 = 6.248$, df = 1, $p < 0.05$），県内出身者の割合の高さが目立つ。

表6　出身地（％）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	61人	80人	141人	495人	188人	33人	152人
県外	14.8	10.0	13.1	11.9	13.9	15.2	13.8
奄美大島	65.6	83.7	75.2	78.2	72.2	78.7	70.4
県内	19.7	6.3	11.7	9.9	13.9	6.1	15.8

7．居住年数

表7は母親の奄美大島での居住年数を尋ねた結果である。名瀬市内の保育所ではこの調査項目がない

表7　大島での居住年数（％）

	へき地			名瀬市以外		
	無職	有職	全体	全体	無職	有職
	61人	80人	141人	188人	33人	151人
1年未満	9.8	1.2	4.8	3.8	0.0	4.6
1年から3年未満	13.1	3.7	7.6	8.1	9.1	7.9
3年から5年未満	3.3	5.0	4.8	3.2	6.1	2.6
5年から10年未満	8.2	8.8	8.3	5.9	3.0	6.6
10年以上	65.6	81.3	74.5	79.0	81.8	78.3

ため記載していない。10年以上と10年未満に分けて比較すると，へき地保育所の無職者は有職者と比べ10年以上が少なく，10年未満が有意に多い（$\chi^2 = 4.473$, df = 1, $p < 0.05$）。同様にへき地保育所の無職者と名瀬市以外全体を比べると同じ傾向が見られる（$\chi^2 = 4.430$, df = 1, $p < 0.05$）。この原因として，もともとへき地保育所の無職者は他の地域と比べ奄美大島出身者が少ないことが上げられる。

8．職　業

各職業を地域（へき地全体，名瀬市以外，名瀬市）ごとに比較すると，常勤の勤務は名瀬市が最も多く，ついで名瀬市以外，へき地と減少していく（$\chi^2 = 40.169$, df = 2, $p < 0.01$）。パートタイム勤務については，名瀬市と名瀬市以外には有意な差は無いが，へき地全体では他の地域（名瀬市，名瀬市以外）と比べてパートタイム勤務の割合が少なく有意な差が認められた（$\chi^2 = 17,527$, df = 2, $p < 0.01$），$\chi^2 = 39.253$, df = 2, $p < 0.01$）。

一般に認可保育所の場合，入所が認められるのは「就労」が原則であるが（ただし求職中，育児休業中も入所可能であるが），へき地保育所の場合は，設置主体の判断に任されているため，母親が専業主婦であっても利用が可能である。そのためへき地保育所の場合は無職者（42.8%）が認可保育所よりもかなり多い。また名瀬市以外の保育所でも17.7%が無職者であり，名瀬市と比べてかなり高い割合である。この原因はおそらく過疎化が進む地域では「就労」する，あるいは継続することに困難を伴うことから，「求職中」の利用や保育所の定員確保の方策が取られていることが考えられる。

表　8　就労形態（%）

	へき地		名瀬市	名瀬市以外	
	有職	全体		全体	有職
	80人	141人	493人	186人	153人
常勤の勤務	25.0	14.3	37.9	29.0	35.3
パートタイム勤務	55.0	31.4	41.6	36.6	44.4
自営業	6.3	3.6	4.9	1.1	1.3
自由業	1.2	0.7	0.4	0.5	0.7
家族従業	7.5	4.3	10.8	12.4	15.0
内職	5.0	2.9	1.6	2.7	3.3
無職	—	42.8	2.8	17.7	—

9．働く理由

表9は有職者について，該当する働く理由を選択数の制限なしで回答した結果である。特に大きな違いは見当たらない。

表9　働く理由（%）

	へき地（有職者）	名瀬市	名瀬市以外
	80人	483人	153人
家計費の足しにするため	70.0	68.8	66.7
自分で自由に使えるお金を得るため	23.8	19.4	17.0
生計を維持するため	43.8	54.8	50.3
将来に備えて貯蓄するため	33.7	39.4	35.9
生きがいを得るため	25.0	23.5	23.5
視野を広げたり，友人を得るため	36.2	34.4	24.8
仕事をするのが好きだから	25.0	28.1	23.5
家業であるから	12.5	10.4	16.3
自分の能力・技術・資格をいかすため	27.5	26.9	26.1
働くのがあたりまえだから	8.8	12.3	13.7
時間的に余裕があるから	15.0	4.0	11.8
社会に貢献するため	7.5	6.5	4.6
いったん退職すると，今と同じ条件での再就職が難しいから	6.3	14.8	15.0
回りの人が働いているから	3.7	1.5	1.3
その他	3.7	2.3	2.0
特に理由はない	1.2	0.4	0.7

10. 日ごろの悩み

表10は日頃の生活の中で，不安や悩みを質問した結果である（選択数の制限無し）。へき地は他の2つの地域と比べ不安や悩みを訴える割合が少なく，へき地全体と名瀬市ではへき地の方が有意に少ない（$\chi^2 = 7.624$, df = 1, $p < 0.01$）。どちらかというと有職者より無職者の方が不安や悩みを訴える割合が少ないが，それは不安や悩みが無いのではなく，「どちらとも言えない」という割合が多く点に特徴があるといえる。

表10　日頃の悩み（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	59人	80人	141人	494人	186人	33人	152人
悩みや不安を感じている	55.9	60.0	57.3	70.6	62.9	48.5	66.5
わからない・どちらとも言えない	37.3	27.5	32.9	20.6	29.0	48.5	24.3
悩みや不安を感じていない	6.8	12.5	9.8	8.7	8.1	3.0	9.2

11. 悩みや不安の内容

不安や悩みを感じていると回答した者に，その内容を選択数の制限無しに回答を求めた結果を表11に示した。「今後の生活費や資産の見通しについて」では，選択の割合に違いが見られるが，統計的には有意差が認められなかった。「近隣・地域の人間関係について」ではへき地の無職者と有職者に有意差

が認められ（$\chi^2 = 12.799$, df = 1, $p < 0.01$），へき地全体と名瀬市にも有意差が認められた（$\chi^2 = 82.14$, df = 1, $p < 0.01$）。へき地の無職者は他の地域と比べ居住年数が少なく，転入者の多いことが近隣の人間関係やその地域に慣れていないことが原因ではないかと推測される。この点は「家族・親族間の人間関係について」ではへき地の無職者が有職者と比べて悩みの一つとしてあげている割合が多いことにも共通している（$\chi^2 = 3.886$, df = 1, $p < 0.05$）。

「住んでいる場所や地域の環境について」では，地域間に有意な差が認められた（$\chi^2 = 5.616$, df = 2, $p < 0.05$）。過疎化の程度が関係すると推測できるが，生活の利便性がやはり問題なのであろう。

表11　悩みや不安の内容（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	33人	48人	81人	348人	121人	16人	105人
自分の健康について	18.2	25.0	22.5	22.1	25.6	6.3	28.6
家族の健康について	42.4	39.6	41.3	39.9	36.4	56.3	33.0
老後の生活設計について	9.1	6.3	7.5	16.7	16.5	6.3	18.1
今後の生活費や資産の見通しについて	36.4	52.1	45.0	46.6	41.3	50.0	40.0
家族の生活について（育児，教育，進学，就職，結婚など）	54.5	52.1	53.7	57.2	56.2	87.5	51.4
家業や事業の経営について	3.0	10.4	7.5	12.1	14.9	0.0	17.1
自分の生活について（教育，就職，結婚など）	15.2	12.5	13.7	12.1	9.9	12.5	9.5
現在の収入や資産について	33.3	18.8	25.0	26.1	24.0	18.8	24.8
近隣・地域の人間関係について	48.5	12.5	26.3	4.0	11.6	6.3	12.4
家族・親族間の人間関係について	27.3	10.4	17.5	22.1	20.7	31.3	19.0
勤務先での仕事や人間関係について	0.0	22.9	13.7	20.4	13.2	0.0	15.2
子育てと仕事等の両立	15.2	37.5	27.5	46.6	34.7	6.3	39.0
住んでいる場所や地域の環境について	39.4	22.9	30.0	8.6	15.7	6.3	17.1
その他	9.1	2.1	5.0	2.3	6.6	12.5	5.7

12. 子育て環境の整備

表12は，子育てをしやすくするために望むことを5つ以内で選択した結果である。明らかに就労形態によって整備してほしい事柄が異なる。例えば「育児休業の充実」「労働時間の短縮」などは有職者が選択する割合が高くなる。有職者について，各要望事項の割合を見ると，地域による違いは（名瀬市，名瀬市以外，へき地）はほとんど無い。大きな違いが見られるのは「保育園の充実」で，へき地保育所に対する要望は高く，へき地全体と名瀬市（$\chi^2 = 18.137$, df = 1, $p < 0.01$），へき地全体と名瀬市以外（$\chi^2 = 8.498$, df = 1, $p < 0.01$）に有意差が認められる。へき地保育所の場合は，単独の保育施設を設置する必要は無く，公民館，集会所，学校，共同作業所，寺院などの一部を利用できる。また遊具や教材は「必要に応じて」備えられることとなっており，園によってかなりの差がある。さらに保育時間や保育内容はその地方の実績に応じて定められるため，子育てのニーズに必ずしも対応できているわけではない。このようなへき地保育所における個別の要望事項は，「14. 保育所に対する要望事項」で詳

しく見ることができる。

注目すべき点は，「近隣同士で，子育てを助け合うような関係」の選択率である。名瀬市と名瀬市以外の間には差は認められないが，へき地全体の方が名瀬市よりこれを望む割合が高い傾向が見られた（$\chi^2 = 3.348$, df = 1, $p < 0.1$）。またへき地でも無職者の方が有職者よりもこれを望む傾向が高い傾向が見られた（$\chi^2 = 3.753$, df = 1, $p < 0.1$）。この点は，「11. 日ごろの悩み」の「近隣・地域の人間関係について」でへき地保育所の無職者がかなり高い値を示したことと関連して，大島出身者が他の地域に比べ少なく，居住年数も少ないことから，助け合う関係を作りたいと考えているが，それがうまく対応できていないと解釈できるかもしれない。

なお「出産費用の補助」では名瀬市以外がかなり高い割合で選択されているが，この原因はよくわからない。

表12　子育て環境の整備（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	55人	79人	141人		181人	33人	147人
育児休業の充実（取りやすい，賃金の保障，休業前と同様の現場復帰など）	21.8	36.7	30.8	39.3	33.1	30.3	34.0
労働時間の短縮（自分の，あるいは夫の。週休2日などを含む）	29.1	32.9	31.6	38.8	34.3	24.2	36.7
出産費用の補助	12.7	19.0	16.5	17.8	32.0	39.4	30.6
育児手当の充実	52.7	45.6	48.9	49.8	46.4	36.4	48.3
保育園の充実（利用しやすい，子育てのニーズに合った，保育内容の充実など）	47.3	60.8	55.6	34.9	38.7	27.3	41.5
職場の保育施設を設置あるいは充実	27.3	17.7	21.8	19.2	22.7	24.2	22.4
公共施設内の託児室の設置や充実	40.0	24.1	30.8	23.3	26.0	39.4	23.1
ベビーシッターの普及	9.1	7.6	8.3	6.4	8.3	6.1	8.8
近隣同士で，子育てを助け合うような関係	23.6	19.0	21.1	14.0	13.8	18.2	12.2
子育ての相談機関の充実	18.2	12.7	14.3	12.0	8.3	12.1	7.5
父親が子育てできるような勤務体制	25.5	21.5	23.3	19.4	19.9	21.2	19.0
夫の応分な家事負担	21.8	22.8	22.6	24.0	26.5	12.1	29.9
住宅や生活環境の改善	20.0	27.8	24.8	16.5	18.2	33.3	15.0
近隣の自然環境の整備	18.2	22.5	20.3	12.2	9.9	9.1	9.5
出産・育児情報を得やすく	10.9	3.8	6.8	6.2	5.0	15.2	2.7
その他	3.6	1.3	2.3	3.1	1.7	3.0	0.7
わからない	5.5	2.5	3.8	2.9	2.8	0.0	3.4

13. 子育ての相談相手

表13は子育てに関する情報を得たり，相談をする相手を尋ねた結果である。（4つまで選択）。

選択される割合が高い相手として，友人・知人，夫，両親を上げることができる。身近な相談相手として夫は重要な位置を占めているが，子育ての経験者として両親の役割や，同時代に子育てをしている友人・知人，あるいは親戚からの情報も貴重といえよう。

「親戚」については，名瀬市と比べ，へき地と名瀬市以外では「親戚」を選択する割合が高い傾向が

ある。統計的には名瀬市と名瀬市以外の間には有意差は無いが，へき地と名瀬市の「親戚」の選択率に有意差が認められた（$\chi^2 = 30.022$, df = 1, $p < 0.01$）。

子育ての情報ということであれば「保育士」の役割が期待されるわけであるが，保育士の選択率をみると，名瀬市と名瀬市以外の間にはその割合に有意差は無いが，へき地は名瀬市に比べて有意に低い（$\chi^2 = 9.112$, df = 1, $p < 0.01$）。へき地保育所では保育士が二人で，多くの場合一人は非常勤である。相談相手として選ばれるかどうかは，相手が専門的知識や経験を持っているかどうかということ以外に，親しみや信頼関係が重要なポイントになると考えられる。認可保育所の場合複数の保育士がおり，相談相手を選ぶ余地があるが，へき地保育所の場合にはその点が難しい。従ってへき地保育所の保育士が相談相手として期待されていないということではなく，選択肢の少なさが原因の一つである可能性がある。

またへき地の場合「夫」の選択率（77.9%）が友人（65.7%）よりも高い点が一つの特徴であろう（$\chi^2 = 2.83$, df = 1, $p < 0.1$）。おそらく近隣に子育て中の知人・友人が少ないことも影響しているのではないか。

表13　子育ての相談相手（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	61人	80人	141人	495人	187人	33人	152人
相談せず，自分でよく考えて解決に努力することが多い	14.8	12.5	13.6	19.8	17.1	15.2	17.8
夫	82.0	75.0	77.9	69.5	70.6	69.7	71.7
あなた又は夫の両親（祖父母）	47.5	51.3	49.3	55.2	56.1	51.5	57.2
親戚の人（祖父母　以外の兄弟・姉妹）	41.0	46.2	43.6	21.0	36.4	51.5	33.6
保育園の保母	26.2	27.5	26.4	40.9	34.8	18.2	38.2
友人・知人	68.9	62.5	65.7	73.1	74.3	72.2	75.0
かかりつけの医師	3.3	7.5	5.7	11.2	7.5	0.0	9.2
保健所の保健婦	11.5	3.7	7.1	2.6	7.0	12.1	5.9
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	4.9	10.0	7.9	6.7	4.3	3.0	3.9
育児書・育児雑誌などの図書	16.4	21.2	19.3	24.2	18.2	9.1	19.7
家庭教育に関する学級・講演・講座	6.6	6.3	6.4	5.1	2.1	3.0	2.0
特に何もしない	3.3	0.0	1.4	1.4	2.1	6.1	1.3
その他	0.0	1.2	0.7	1.6	0.5	3.0	0.0

14. 保育所に対する要望

表14は保育所に対する要望の有無を尋ねた結果である。地域による差は無い。

表14　保育園に対する要望（%）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	60人	79人	141人	495人	182人	33人	148人
ある	60.0	69.6	65.2	71.4	65.4	57.5	66.9
ない	30.0	24.1	26.8	21.9	25.8	27.3	25.7
わからない	10.0	6.3	8.0	6.6	8.8	15.2	7.4

15. 保育所への要望事項

表15は保育所に対する要望があると回答した者が，６つ以内で選択した結果である。「保育料」は名瀬市や名瀬市以外で最も高く，その割合に差は無い。へき地の場合は4,000円前後を教材，消耗品，おやつ等の費用として徴集している程度なので，それほどの負担感は無く，保育料を安くしてほしいという要望が少なくなったのであろう。「入園の手続き」や「いつでも入れるように」に関しては，その地域の子どもの数と園の定員の充足率や「就労形態」との関係が影響しているかもしれない。

保育ニーズに対応するという点については，「休日・祝日にも保育を」「在園児でなくても，親が急病・急用などの時に，一時的に利用できるように」「保育園の閉園時間をもっと遅く」「保育園の開所時間をもっと早く」「小学生を放課後，一定時間受入れてほしい（学童保育など）」公立の保育所の対応が遅れているため地域の差が生じていると考えられる。名瀬市の場合は８園のうち私立が２園，設置主体と経営母体が名瀬市の場合が２園，設置主体が名瀬市で経営母体が名瀬市社会福祉事業団３園と民間委託が１園となっており，保育ニーズへの対応は名瀬市以外（調査園は全て公立）やへき地よりも，全体としては進んでいる。

表15　保育園への要望（％）

	へき地		名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職		全体	無職	有職
	36人	55人	346人	124人	21人	102人
保育料を安く	8.3	16.4	67.6	61.3	71.4	59.8
入園の手続きを簡単に	8.3	3.6	32.4	18.5	28.6	15.7
産休明けにも入れるように（０歳の乳児でも入れるように）	16.7	14.5	11.6	13.7	9.5	14.7
休日・祝日にも保育を	5.6	27.3	26.9	19.4	14.3	20.6
保育料を税金の控除対象に	5.6	12.7	40.2	22.6	9.5	25.5
いつでも入れるように	19.4	23.6	12.7	13.7	33.3	9.8
子どもが軽い病気の時には預ってほしい	2.8	14.5	31.2	22.6	19.0	23.5
在園児でなくても，親が急病・急用などの時に，一時的に利用できるように	38.9	14.5	16.8	24.2	47.6	19.6
育児相談や育児に関する情報を提供してほしい	11.1	5.5	7.8	7.3	0.0	8.8
保育園の閉園時間をもっと遅く	36.1	56.4	10.7	20.2	14.3	21.6
保育園の開所時間をもっと早く	16.7	32.7	3.2	6.5	4.8	6.9
保育園が近所にほしい	8.3	9.1	2.0	2.4	0.0	2.9
母親の苦労を保母さんがもっと理解を	5.6	0.0	4.9	11.3	9.5	11.8
小学生を放課後，一定時間受入れてほしい（学童保育など）	5.6	23.6	19.4	19.4	4.8	22.5
入園定員を増加（待機することが無いように）	2.8	7.3	2.0	2.4	4.8	2.0
保育園の施設・設備を改善	33.3	20.0	13.9	9.7	4.8	10.8
保育の内容を充実	22.2	16.4	10.7	10.5	4.8	11.8
保育園での子どもの様子をもっと教えてほしい	55.6	54.5	31.8	25.8	9.5	28.4
働いてなくても預けられるように（就業の予定者も含む）	13.9	5.5	22.8	17.7	33.3	14.7
障害児の受入れ	2.8	1.8	4.6	2.4	4.8	2.0
保母の数を増やしてほしい	30.6	30.9	12.7	12.1	9.5	12.7
夜間にも利用できるように	19.4	1.8	7.2	8.1	0.0	9.8
給食を改善	5.6	27.3	1.4	0.8	0.0	1.0
保育園の保育や行事などで，保護者の負担を少なく	5.6	1.8	10.4	10.5	0.0	12.7
その他	0.0	12.7	7.8	4.8	4.8	4.9

名瀬市と名瀬市以外での職者だけで比較すると，保育所に対する要望事項で大きな差が見られるのは「保育園の閉園時間をもっと遅く」の項目で名瀬市以外で要望する割合が高い（$\chi^2 = 7.080$, df = 1, $p < 0.01$）。これ以外には「入園の手続き簡単に」が目立つ程度で要望事項に大きな違いは無い。

へき地保育所の場合は認可保育所に比べ，「開園時間」「閉園時間」「学童保育」「一時保育」などの対応ができにくく，認可保育所に比べて要望事項の割合が高い。また「施設設備」や「給食」の改善要望も高いが，「施設設備」に関しては園によってはかなり整備された保育所もある。「給食」は厨房の設置がないため，有職者に要望する割合が高くなっている。また「保母の数を増やしてほしい」という要望は，定員の30人近くが入所している園でその割合が多いようである。へき地保育所でひとつだけ問題となることは，「保育園での子どもの様子をもっと教えてほしい」という要望が非常に高いという点である。この原因は明らかではないが，家庭との連携を深めるという観点からも改善が求められる。

16. 夫の協力

夫の家事や育児への協力に対する満足度を表16に示した。名瀬市の調査では評価段階が異なっているため，満足と不満に分けて記載した。そこで「満足・少し満足」と「不満・少し不満」の２つに分類して，へき地全体，名瀬市，名瀬市全体で比較したところ有意差は認められなかった。60％前後が満足と答え，30％前後が不満と回答しているが，全国的な調査（1993年厚生省人口問題研究所）とほぼ同じ割合となっている。

表16　夫の協力への満足度（％）

	へき地			名瀬市	名瀬市以外		
	無職	有職	全体		全体	無職	有職
	58人	66人	124人		161人	31人	129人
満足している	22.4	22.7	22.8	63.5	22.4	22.6	22.5
少し満足している	32.8	36.4	34.1		35.4	25.7	37.9
どちらともいえない	13.8	18.2	16.3	5.4	12.4	19.4	10.1
少し不満である	22.4	19.7	21.1	31.1	19.9	25.8	18.6
不満である	8.6	3.0	5.7		31.1	9.9	6.5

17. へき地保育所を利用している理由

へき地保育所を利用している者に，その理由を２つまで回答してもらった結果が表17である。認可保育所を利用したいが，近くにないと回答した割合は20％弱で，認可保育所を利用したいと希望する割合はそれほど高くない。むしろその地域で子育てをする施設として定着しており，保育料の負担が少ないこともメリットとして捉えている事が推測される。

表17．へき地保育所を利用している理由（％）

	へき地		
	無職	有職	全体
	59人	80人	139人
近くに認可保育園が無い	16.9	17.5	17.3
この地域では以前から利用	50.8	45.0	47.5
保育料の負担が少ない	45.8	45.0	45.3
不都合は無い	5.1	22.5	15.1
認可保育所に空が無い	3.4	0.0	1.4
少人数が良い	8.5	7.5	7.9
保育環境が良い	23.7	25.0	24.5
ここしか入れない	6.8	13.7	10.8
特に無い	1.7	3.7	5.8
分からない	1.7	1.2	1.4
その他		3.7	2.9

ま　と　め

以上17項目について考察をしてきたが，全体的なまとめとして，過疎地の保育所における育児支援を考える場合，次のような留意点を上げる事ができるであろう。

1．過疎地の保育所には，親の就労などによって「育児にかける」児童だけでなく，無職の（求職中や育児休業中を含む）母親がかなりの割合を占める。そのため都市部の保育所とは異なった保育ニーズがあると推測される。例えば「いつでも入れるように」「在園児でなくても緊急の場合は預かってほしい」などの要望が無職者には高い。ただしこの結果は親の「就労」を前提とした質問項目が多く，質問内容を変えると結果は異なる可能性がある。また，過疎地の保育所はほとんどが公立であり，多様な保育ニーズへの対応が遅れているという批判があるように，都市部の保育所に対する要望の違いは設置主体，あるいは経営主体によるものも少なくない。例えば「閉所時間を遅く」，「学童保育」，「乳児保育」など。

2．へき地保育所に通園する園児の母親のうち無職者は，他の認可保育所と比べて奄美出身者の割合が少なく，居住年数も少ないため，地域の人間関係や家族・親族間の人間関係に悩む割合が多い。しかしそれと同時に近隣の人たちと育児を支え合う関係を望んでいるという結果が出ている。

3．子どもの数はへき地保育所に通園する園児の母親の方が，名瀬市やその近隣の市町村の認可保育所に通園する園児の母親よりも多い。ただし通園している園児の割合には違いは無い。もともと過疎地は子どもの絶対数が少ないわけであるから，通園児のきょうだい（あるいは地域の子どもを全て対象にして）を何らかの形で保育所に受け入れることができれば，保育所の存続に希望が持てるし，子どもの人間関係の広がりが期待でき，地域の子育ての中心的な役割を担うことができる。

4．就労形態が名瀬市，名瀬市以外，へき地で異なり，過疎が進むほど常勤が少なく，パートタイム勤務が増す傾向がある。この就労形態が，坪井（1999）で報告されたように，夫の家事・育児に対する協力度や保育士を相談相手に選ぶ割合に影響を与える可能性がある。

5．子どもを育てる環境についての要望では，有職者と無職者では当然異なるが（育児休業，労働時間など），「夫の応分な家事に対する負担」は名瀬市以外を除いて20％～30％とほぼ同じ値を取っていることから，居住する地域や母親の就労とは関係無く，「夫」の家事への協力が求められているといえる。ただし夫の協力度を尋ねた結果では，妻の60％弱が満足している。

　またいずれの地域でも，「労働時間の短縮」に対する要望は高く，「公共施設内の託児室の設置や充実」なども今後改善していく必要がある。

6．へき地保育所では，「もっと利用しやすく」，「保育内容の充実」，「保育園の施設・設備を改善」など保育園の充実に対する要望が高い。この「保育園の施設・設備を改善」について，他の施設の一部を利用している場合が少なくないが，大人が使う施設としてはふさわしいとしても，集団保育と言う観点からその施設が子どもの生活環境としてふさわしいかどうかが問題であろう。

　また「保育士の増員」にかなりの要望が出ている。この点は，専任が一人であるということだけでなく，異年齢保育の形態をとる園が多い点を考えると，30名の定員という人数だけの問題ではなく，そこに含まれる子どもの発達段階（３歳～５歳という幅広い年齢層）との対応や異年齢保育の形態を

取るために 必要な保育士の数と言う点から検討すべき問題である。

7．子育ての相談相手は，友人・知人，夫，両親が高い値を取っているが，名瀬市よりへき地・名瀬市以外の方が「親戚」の割合が高いこと，逆に「保育士」を選択する割合がへき地保育所の場合低い点が気になるところである。ただしこれは考察のところで述べたように，その園での保育士の数が選択率に影響している可能性がある。

引用文献

坪井敏純　1999　鹿児島県の離島における母親の育児意識と育児環境－鹿児島県（名瀬市）の保育園通園児の母親を対象とした調査　鹿児島女子短期大学研究紀要第35号，117～146

坪井敏純　2000　鹿児島の離島（奄美大島）における育児と保育所　日本保育学会第53回大会発表論文集　自主シンポジウム14，29

坪井敏純　2000　離島における子育て相談の相手　全国保育士養成協議会第39回研究大会発表論文集，72-73

宮里六郎　1999　過疎地における保育所の実態と課題　保育白書　草土社　Pp152-155

櫻井慶一　2000　過疎地の保育所のあり方と今後の問題　保育年報　全国社会福祉協議会　Pp42-49

山縣文治　1999　過疎地の保育所運営　保育所問題資料集　全国私立保育園連盟　Pp31-33

資　　料

アンケート回答用紙

問1．回答していただいた方はどなたですか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．母親

2．父親

3．その他

問2．あなたの年齢について。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．10歳代

2．20歳代

3．30歳代

4．40歳代以上

問3．家族の構成について。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．夫婦と子ども（単身赴任を含みます）

2．夫婦と子どもと親族（親戚）

あなた，または夫の祖父母が同居者に含まれますか。どちらかに○を付けてください。

（　含まれる　　含まれない　）

3．夫婦と子どもとその他（親族を含まない）

4．母親又は父親（どちらか該当する方を○で囲んでください）と子ども

5．母親又は父親（どちらか該当する方を○で囲んでください）と子どもと親族（親戚）

あなた，または夫の祖父母が同居者に含まれますか。どちらかに○を付けてください。

（　含まれる　　含まれない　）

6．母親又は父親（どちらか該当する方を○で囲んで下さい）と子どもとその他（親族を含まない）

7．その他

問4．子どもさんは何人ですか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．1人

2．2人

3．3人　以上

問5．保育園に通っていらっしゃるお子さんは，何人ですか。また何番目で何歳ですか。

1．1人（　　番目　　歳）

2．2人（　　番目　　歳）と（　　番目　　歳）

3．3人　以上；下から2人までお書き下さい。（　　番目　　歳）と（　　番目　　歳）

問6．出身地；あなたのお生まれはどちらですか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．県外（鹿児島県以外の出身）

2．奄美大島　本島（名瀬市，笠利町，龍郷町，大和村，住用村，宇検村，瀬戸内町）

3．県内；奄美大島本島以外の鹿児島県内

問７．大島での居住年数について

奄美大島本島に通算して何年間お住まいですか（お生まれになってからの年数です。本島内での転居も含みます）。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

１．１年未満
２．１年から３年未満
３．３年から５年未満
４．５年から10年未満
５．10年以上

問８．あなたの現在の職業について，当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

１．常勤の勤務（正規職員。ただし家業の場合は「５」に○をしてください）
２．パートタイム勤務（非正規職員で，臨時・派遣職員・アルバイトなど不定期，あるいは特定の時期だけの勤務などを含みます）
３．自営業（商店など，あなたが経営しているもの）
４．自由業（開業医，弁護士，作家など人に雇われていない専門的な技能を必要とするもの）
５．家族従業（家業；農林水漁業，自営業，自由業などの家業に，従事あるいは手伝い）
６．内職
７．無職

問９．働く理由について

現在あなたが働いている理由はどのような理由からでしょうか。当てはまる所の番号をすべて○で囲んで下さい（いくつ選んでもかまいません）。

１．家計費の足しにするため
２．自分で自由に使えるお金を得るため
３．生計を維持するため
４．将来に備えて貯蓄するため
５．生きがいを得るため
６．視野を広げたり，友人を得るため
７．仕事をするのが好きだから
８．家業であるから
９．自分の能力・技術・資格をいかすため
10．働くのがあたりまえだから
11．時間的に余裕があるから
12．社会に貢献するため
13．いったん退職すると，今と同じ条件での再就職が難しいから
14．回りの人が働いているから
15．その他
16．特に理由はない

問10．日頃の悩み

あなたは，日頃の生活の中で，何か悩みや不安を感じていらっしゃいますか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．悩みや不安を感じている
2．わからない・どちらとも言えない
3．悩みや不安を感じていない

問11．

問10の「1」に○を付けた方だけにお尋ねします。「2」または「3」と答えた方は次の「問12」の質問に移って下さい。

［質問］　悩みや不安を感じているのはどのようなことですか。当てはまる所の番号をすべて○で囲んで下さい（いくつ選んでもかまいません）。

1．自分の健康について
2．家族の健康について
3．老後の生活設計について
4．今後の生活費や資産の見通しについて
5．家族の生活について（育児，教育，進学，就職，結婚など）
6．家業や事業の経営について
7．自分の生活について（教育，就職，結婚など）
8．現在の収入や資産について
9．近隣・地域の人間関係について
10．家族・親族間の人間関係について
11．勤務先での仕事や人間関係について
12．子育てと仕事等の両立
13．住んでいる場所や地域の環境について
14．その他

問12．子育ての感じ方

保育園に通っている子どもさんの育児について。以下の質問にお答え下さい。各質問についての感じ方を，次の7段階の基準で，あてはまる段階（質問の後の1～7）に○を付けて下さい。

2人以上子どもさんがいらっしゃる場合には，それぞれの子どもさんに対して感じ方が違う場合もあると思いますが，子育てについての総合の感じでご判断ください。

なお母子家庭あるいは父子家庭の方には当てはまらない質問がいくつかありますが，その部分は未記入でかまいません。

＜段階の目安＞

1．強くそう思う　　2．そう思う　　3．どちらかと言えばそう思う
4．どちらともいえない（わからない）
5．どちらかと言えばそう思う　　6．そう思わない　　7．まったくそう思わない

［質問］	［段階］ はい ←					→ いいえ	
（1） 自分の時間を子どもに取られてしまう	1	2	3	4	5	6	7
（2） 子どもの成長が楽しみである	1	2	3	4	5	6	7
（3） 育児やしつけなどの自信がない	1	2	3	4	5	6	7
（4） 子どものことについてよく夫婦で話し合う	1	2	3	4	5	6	7
（5） 育児以外に楽しみや趣味を持ちたい	1	2	3	4	5	6	7
（6） 育児は楽しい	1	2	3	4	5	6	7
（7） なんとなくいらいらする	1	2	3	4	5	6	7
（8） 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	1	2	3	4	5	6	7
（9） 夫は，一緒に育児をしてくれている	1	2	3	4	5	6	7
（10） 子どもの生活態度や性格が心配	1	2	3	4	5	6	7
	はい ←					→ いいえ	
（11） 子供を持って自分も成長した	1	2	3	4	5	6	7
（12） 育児は身体が疲れる	1	2	3	4	5	6	7
（13） 親族など周囲の干渉がわずらわしい	1	2	3	4	5	6	7
（14） 自分の生きがいは育児だけではない	1	2	3	4	5	6	7
（15） 育児は母親の責任が一番大きい	1	2	3	4	5	6	7
（16） 子どもの性格が自分とあわない	1	2	3	4	5	6	7
（17） 毎日毎日同じことの繰り返ししかしていないと思う	1	2	3	4	5	6	7
（18） 育児は有意義な仕事である	1	2	3	4	5	6	7
（19） 育児ノイローゼになる心境に共感できる	1	2	3	4	5	6	7
（20） 子どもが自分になつかない	1	2	3	4	5	6	7
	はい ←					→ いいえ	
（21） 自分一人で子どもを育てているのだという圧力感を感じてしまう	1	2	3	4	5	6	7
（22） 子どもの健康や体力に不安	1	2	3	4	5	6	7
（23） 夫は家事に協力的である	1	2	3	4	5	6	7
（24） なかなか気分転換ができない	1	2	3	4	5	6	7
（25） 子育てに充実感がある	1	2	3	4	5	6	7
（26） 子育ての情報が少ない	1	2	3	4	5	6	7
（27） 育児のことで気軽に相談できる人がいる	1	2	3	4	5	6	7

問13．子育て環境について

あなたの子育てをしやすくするためには，どのような制度や環境を整えてほしいですか。

5つ以内を選んで，当てはまる所の番号を○で囲んでください。

1．育児休業の充実（取りやすい，賃金の保障，休業前と同様の現場復帰など）

2．労働時間の短縮（自分の，あるいは夫の。週休2日などを含む）
3．出産費用の補助
4．育児手当の充実
5．保育園の充実（利用しやすい，子育てのニーズに合った，保育内容の充実，など）
6．職場の保育施設を設置あるいは充実
7．公共施設内の託児室の設置や充実
8．ベビーシッターの普及
9．近隣同士で，子育てを助け合うような関係
10．子育ての相談機関の充実
11．父親が子育てできるような勤務体制
12．夫の応分な家事負担
13．住宅や生活環境の改善
14．近隣の自然環境の改善
15．出産・育児情報を得やすく
16．わからない
17．その他（差し支えなければお書き下さい）

問14．子育ての相談相手について

子育てで困った時などがある時，どなたに（どこに）相談しますか。あるいは参考にする情報をどこから得ますか。4つ以内を選んで，当てはまる所の番号を○で囲んでください。

1．相談せず，自分でよく考えて解決に努力することが多い
2．夫
3．あなた又は夫の両親（祖父母）
4．親戚の人（祖父母　以外の兄弟・姉妹）
5．保育園の保母
6．友人・知人
7．かかりつけの医師
8．専門の相談機関
9．保健所の保健婦
10．テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー
11．育児書・育児雑誌などの図書
12．家庭教育に関する学級・講演・講座
13．特に何もしない
14．その他；さしつかえなければ，下にお書きください

（　　）

問15．保育園に対する要望がありますか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1．ある　　2．ない　　3．わからない

問16．利用しやすい保育園

問15で「１」の「ある」と答えた方にお尋ねします。その他の方は「問17」に進んで下さい。

［質問］　保育園を利用しやすくするために，保育園や保育の制度などに関して，どのような要望がありますか。６つ以内を選んで，当てはまる所の番号を○で囲んでください。

1．保育料を安く
2．入園の手続きを簡単に
3．産休明けにも入れるように（０歳の乳児でも入れるように）
4．休日・祝日にも保育を
5．保育料を税金の控除対象に
6．いつでも入れるように
7．子どもが軽い病気の時には預ってほしい
8．在園児でなくても，親が急病・急用などの時に，一時的に利用できるように
9．育児相談や育児に関する情報w提供してほしい
10．保育園の閉園時間をもっと遅く
11．保育園の開所時間をもっと早く
12．保育園が近所にほしい
13．母親の苦労を保母さんがもっと理解を
14．小学生を放課後，一定時間受入れてほしい（学童保育など）
15．入園定員を増加（待機することが無いように）
16．保育園の施設・設備を改善
17．保育の内容を充実
18．保育園での子どもの様子をもっと教えてほしい
19．働いてなくても預けられるように（就業の予定者も含む）
20．障害児の受入れ
21．保母の数を増やしてほしい
22．夜間にも利用できるように
23．給食を改善
24．保育園の保育や行事などで，保護者の負担を少なく
25．その他；さしつかえなければ下にお書き下さい

（　　）

問17．配偶者（夫）のいらっしゃる方にお尋ねします。

あなたは夫の育児や家事の協力に対してどの程度満足していらっしゃいますか。当てはまる所の番号をひとつだけ選んで○で囲んで下さい。

1．満足している
2．少し満足している
3．どちらともいえない。わからない

4．少し不満である

5．不満である

問18．へき地保育所を利用されている方だけに伺いします。

へき地保育所を利用する理由の中で，次の選択肢のうち大きな理由を2つ以内で選んでください。

1．利用しやすいところに（近隣，あるいは仕事場の近くなどに）認可保育所が無い

2．この地域では，以前からこの保育所を利用している

3．保育料の負担が少ない

4．この保育所で子育てや仕事に不都合は無い

5．入りたい認可保育所に空きが無い

6．少人数の保育が良い

7．地域や自然などの保育環境が良い

8．この保育所以外に入園の許可が下りない

9．幼稚園が無いから

10．特に考えたことは無い

11．わからない

12．その他（差し支えなければ，下に理由をお書き下さい）

以上です。ご協力ありがとうございました。